

トークイベント“翔タイム”を開催します

◎問い合わせ
本庁生涯学習スポーツ課スポーツ振興係(江刺総合支所・内線 334)

市では、大谷翔平選手ふるさと応援団と岩手日報社の共催により、大谷翔平選手ふるさと応援団フレイボール「トークイベント“翔タイム”-いわて奥州からエール-」を開催します。米大リーグのロサンゼルス・エンゼルスで活躍する大谷選手へ、ふるさと奥州からエールを送りましょう。

トークイベント“翔タイム”-いわて奥州からエール-

■日時 11月4日(木)午後2時～4時半(午後1時半開場)

■会場 市文化会館(2ホール・中ホール)

■内容

▶ストレートトーク(基調講演)

演題 「大谷翔平選手の生き方にふれて～岩手で育まれた思考力と感性～」

講師 佐々木亨氏(スポーツライター)

▶クロストーク(パネルディスカッション)

演題 「二刀流大谷翔平の秘密と記録」

パネラー 佐々木亨氏

小菅智美氏(花巻東高校コンディショニングコーチ)

小野田純一氏(岩手日報大谷翔平特派員)

立花公夫氏(ふるさと応援団顧問)

進行 浅見智氏(IBC岩手放送アナウンサー)

▶応援メッセージ映像上映

▶報道パネル展、グッズ展示 ほか

■入場料 無料(聴講券が必要)

■定員 500人(先着順)

■申込期限 10月25日(金)

■申込方法 住所、氏名、電話番号、聴講券必要枚数を記載して、はがき、ファクス、メールで申し込み

■申込先 岩手日報社企画推進部
「トークイベント“翔タイム”」係
(〒020-8622盛岡市内丸3-7)
☎ 019-653-4119、☎ 019-626-1881
✉ showtime@iwate-np.co.jp

こちらのQRコードからも申し込みます →



フレイイベント

■開催期間 10月26日(金)～11月3日(日)

■会場 コープあてるい2階催事場

■内容 報道パネル展示



ハロウィンジャンボ宝くじ発売中です

◎問い合わせ
(公財)県市町村振興協会
(☎ 019-651-3461)

宝くじの収益金は市町村の明るく住みよいまちづくりに使われます。宝くじ売場のほか、特設売り場として市内の4施設でもお買い求めいただけます。

■発売期間 10月23日(木)まで

■特設売り場

市役所本庁地階職員組合売店(水沢大手町1-1)

みずさわ観光物産センター(水沢西町1-1)

歴史公園えさし藤原の郷(江刺岩谷堂字小名丸86-1)

国民宿舎サンホテル衣川荘(衣川日向60-2)

■抽せん日 10月30日(日)

■賞金

ハロウィンジャンボ 1等3億円・前後賞各1億円ほか

ハロウィンジャンボミニ 1等3千万円・前後賞各1千万円ほか



国民宿舎サンホテル衣川荘内の特設売り場

市では、宝くじの収益金から配分される交付金を地域の活性化に役立つ事業(国際交流および多文化共生の推進など)に充てて活用しています。

<参考> 29年度の交付金交付額 14,690千円

<今月の表紙>

奥州YOSAKOI inみずさわ

奥州YOSAKOI inみずさわ(同実行委員会主催)が9月16日、水沢駅通りなどで行われました。地震の影響が心配された北海道のチームを含む全国各地から55チーム、約1,500人の踊り子が集結し、それぞれ独創的な演舞を披露。写真は地元水沢の「幻夢伝(げんむでん)」。気迫あふれる演舞で観客を魅了しました。



Public Relations Magazine Oshu City

2018.10 Vol.152

広報おうしゅう
平成30年10月号

CONTENTS

- | | | | |
|----|--|----|----------------------------------|
| 2 | キラリ輝く奥州人 | 19 | せいかつ百科 |
| 3 | トークイベント“翔タイム”を開催します
ハロウィンジャンボ宝くじ発売中です | | 市長コラム「おうしゅう羅針盤」 |
| 4 | 【特集】広げよう! 介護予防の輪 | 20 | いいところ、知っとこ おうしゅう |
| 8 | 平成29年度 決算 | 21 | まなびの里 |
| 12 | 平成31年度認定こども園・幼稚園・保育所の園児を募集 | 22 | もっと安心 ずっとおうしゅう |
| 14 | 産後ケア事業・産婦健康診査事業がスタート | | はい、こちら総合相談室 |
| 16 | 街diary | 23 | トマス・アンナのあんなことこんなこと
姉妹都市 掛川だより |
| 18 | ILC希望のひかり | 24 | インフォメーション |
| | | 28 | 奥州遺産 |



山車の前面に取り付けた部材の確認作業

平さんは、自身の経験を生かして会を盛り上げていきたい。思いから、山車部での活動を決意。現在は38人の部員たちと共に、週3回、山車の天板や側面の取り付け作業を進めている。昨年冬、先輩たちの山車製作を手伝いながら、少しずつ自分たちのテーマを考えてきたという耕平さん。「前沢をうまく表現し、自分たちのカラーで祭りを盛り上げたい。そして、後輩たちにいい形で引き継いでいけたら」と抱負を語る。来年春、山車に新しい魂が吹き込まれる。

とびっきりの山車で祭りを盛り上げたい

奥州前沢春まつりでたくさん人の目を集める厄年連の「山車」。その製作に取り掛かる千葉耕平さんは、平成31年奥州前沢42歳厄年連「七未彩会」の山車部長だ。毎年、山車は祭りが終わると解体され、骨組みの状態を引き継がれる。山車部員たちが中心となってデザインなどを考え、多くの時間を費やして新しい山車を作り上げる前沢厄年連の伝統である。除雪車などの特殊車両を修繕する会社に勤務している耕



ちば・こうへい◎昭和54年、前沢生まれ。「MDSライダー's倶楽部」の会長を務め、白バイ隊との合同による二輪車の安全教習を前沢自動車学校で開催。妻と子ども2人の4人家族